

【エントリー情報】

自治体名：滋賀県彦根市

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：滋賀県彦根市立稲枝東小学校

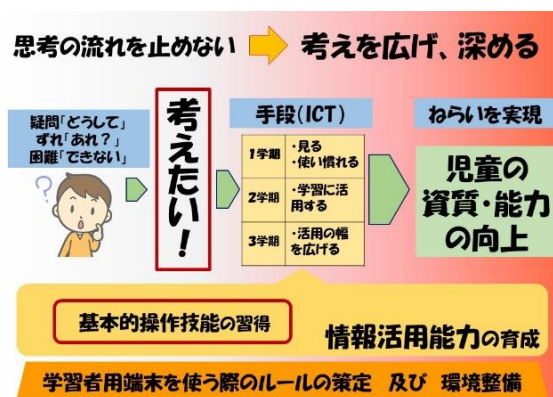
ご記入者：平岩 優佑

【設問】

① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

主題名【思考の流れを止めない学びの実現 学級から「学校」へ その広がり意識して】



今年度の人事異動を受け、稲枝東小学校に赴任しました。1年生の担任に決まりました。それは、私自身が何よりも希望した学年でした。希望した理由は、2つあります。1つ目は、1年生がもつ知的好奇心の高さと技能の習得の速さに、指導者としてやりがいを感じていたからです。以前にも1年生を担当したことがあり、児童の大きな成長に傍らで寄り添いたいと考えました。2つ目は、ICT推進リーダーとしての経験からくるものです。昨年度は、6年生を担当し、ICTを用いた学習の在り方のゴールを私なりに感じていました。ちょうどその時、低学年を担当する同僚から、「1年生は、ローマ字入力ができない」「端末を扱うだけでも時間がかかる」「高学年になればなるほど、活用の幅が広がる」という声を聞きました。正直、校内で活用の幅が広がらないもどかしさを感じました。むしろ、初めてのことばかりで、好奇心が強く、学習への興味・関心が高い1年生だからこそ、ICTを用いることで、学習のねらいを効率よく達成できるのではないかと考えるようになりました。そして、自分自身だけでなく、「学校」としてのICT活用の広がりを目指しました。

現学習指導要領において、情報活用能力は、言語能力、問題解決能力と並んで学習の基盤となる能力として位置づけられています。つまり、児童の資質・能力を高める土台として、情報活用能力が不可欠であるということが示されています。また、文部科学省では、情報活用能力の育成に係るカリキュラム・マネジメントの在り方や、ICTを効果的に活用した指導方法の開発のための実践的な研究として、「情報教育の推進等に関する調査研究」が示されました。その中で提示されている「情報活用能力の体系表」によると、低学年がどこまで端

末の操作を行えばよいかが見えてきました。具体的な技能は、以下の3つです。

- ・コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作
- ・電子ファイルの呼び出しや保存
- ・画像編集・ペイント系アプリケーションの操作

つまり、キーボードを用いた文字入力やアニメーションの操作を駆使したプレゼンテーション資料の作成までは、必ずしも必要ないことがわかります。児童につけたい具体的な技能が明らかになれば、ポイントは1つと考えました。「どのような過程を経て、児童に力をつけるか」です。私の中で、以下の3点の考えを大事にしました。

①知的好奇心の高い1年生の「考えたい」という思いを無視した学習の進め方では望ましくない。

②あくまでも、ICTは「手段」であって、目的ではない。その大前提も崩してはいけない。

③文字の習得が著しい1年生だからこそ、特に国語科では、書く活動を大事にしたい。

上記の思いを念頭に置き、本主題を設定するに至りました。

また、本校が令和5年度に目指す学校教育目標は、「心豊かで自ら学ぶ 未来にたくましく生きる子どもの育成」です。達成への取り組みの柱として、「智」「徳」「体」の調和のとれた教育の推進が掲げられています。その中の「智」（確かな学力を育む）を育むために、「ICTを活用した学習活動の充実」が求められています。しかし、年度当初、本校のICTの活用率は決して高いとは言えない状況でした。「オクリンク」の使い方を知らない同僚も複数いるほどでした。端末の取り扱いに関するルールの設定、環境整備、活用を学校全体に広めることが、私の最重要課題だったのです。

② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500文字以内）

【実践の構成】

ア 端末を使う際のルールの策定 及び 環境整備について

イ 国語科の実践を通して（スモールステップで、基本的操作技能や情報活用能力の育成を目指しました）

説明文…「くちばし」「うみのかくれんぼ」「じどう車くらべ」

物語…「くじらぐも」

言葉の学習…「ものの名まえ」

ウ その他の教科の実践を通して

・算数科「ひきざん」

・生活科「きれいにさいてね」

・図画工作科「ひもひもねんど」

・音楽科「ようすをおもいうかべよう」など

エ 学級から「学校」へ活用を広げる取り組みについて

【活動の例】

・国語科「じどう車くらべ」の学習では、児童が使うプリントを、児童がつくるという初めての活動を取り入れました。これまでは、児童に合わせたプリントを作る際は、指導者側の負担が大変大きく、多くの時間を要していました。しかし、オクリンクを活用することで、児童が提出したカードを教室で一括印刷することができ、作業効率は飛躍的に良くなりました。具体的に学習では、テンプレートだけを用意して、児童に送りました。児童は、自分の興味のある自動車を選び、オクリンク上で資料をコピーし、テンプレートに貼り付けました。トリミングをしたり、余分な文章に図形を重ねることで見えなくしたりする活動は、戸惑いを見せる児童もいましたが、45分の学習時間の中で全員が終えることができました。児童が作成したカードをもとに、掲示物を作成することもでき、深い学びへのきっかけづくりに大いに役立ちました。

・国語科「ものの名まえ」の学習では、端末を用いて児童が積極的に学びに向かう姿が見られました。この単元では、言語活動としてお店屋さんごっこをすることが多いと聞きます。これまでだと、児童がつくったカードを数枚印刷する必要がありました。もちろん、モノクロコピーです。さらに、1枚のプリントに数種類の品物が描かれている場合は、はさみで切る必要性も出てきます。つまり、学習とは別に作業の時間を要していました。しかし、オクリンクを使うことで、上記の作業は一切なくなりました。児童が、1つひとつの品物が描かれたカードをマイボード上に用意するだけです。あとは、児童同士でカードの送り合いをすることで、活動が行えます。売り手側として品物が売り切れる心配もありません。イラストはカラーで表示されています。活動本番は、買い手側の児童は、買った品物のカードを楽しそうに、買い物かごと表示されているカードの後ろにつなげていました。オクリンクを使うことで、ねらいを達成しながら、より効率よく学習を行うことができました。

なお、実践で用いる2つの言葉は次の通り定義しました。

○基本的操作技能…児童が、端末を扱う際に、操作することが望ましいものを指します。1年生では、上述した、以下の技能の習得を目指しました。

- ・コンピュータの起動や終了、写真撮影などの基本操作
- ・電子ファイルの呼び出しや保存
- ・画像編集・ペイント系アプリケーションの操作

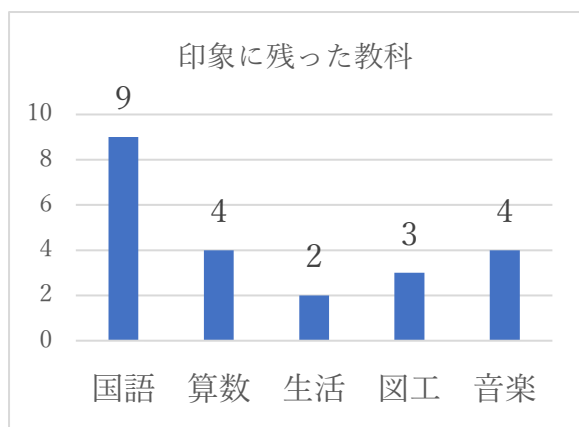
○情報活用能力…情報および情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のことを指します。つまり、学習活動において必要に応じてコンピュータなどの情報手段を適切に用いて情報を得たり、

情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したりする力です。本研究では、情報活用能力を以下の11のカテゴリーに分類しました。

【選ぶ】【気付く】【発表する】【つくる】【つかむ】【交流する】
 【比較する】【記録する】【表現する】【調べる】【振り返る】

③ (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000文字以内)

本実践は、国語科を窓口にしなが、多数の教科を取り扱いました。学習のねらいの達成と同時に基本操作技能や情報活用能力を育成するためには、一つの教科に絞ってしまっは、難しいと考えました。それは、児童のアンケートからも見受けられます。端末を使った学習で印象に残った教科とその内容を聞いたところ、結果は以下の通りでした。



国語…「うみのかくれんぼ」「じどう車くらべ」
 算数…「たしざん」「ひきざん」「3つの数の計算」
 「かさくらべ」
 生活…「きれいにさいてね」
 図工…「ひもひもねんど」
 音楽…「ようすをおもいうかべよう」

印象に残った教科は、児童によって様々です。つまり、「大事なことは端末をどの教科で使うか」ではなく、学習のねらいを達成するために、「端末をどのように活用するか」です。

活用について、児童のアンケートから一つのヒントを得ることができました。以下の3つの質問事項に対して、ノートか端末かを尋ねてみました。

質問事項	ノート	端末
自分の考えを書くなら	71%	29%
振り返りを書くなら	76%	24%
友だちの考えを見るなら	20%	80%

「書く」活動においては、圧倒的にノートを支持する声が高かったです。理由としては、以下の点が挙げられました。

- ・ノートには、マス目があってわかりやすい。文字がまっすぐに書ける。
- ・ノートだと、めあて・まとめ・ふりかえりが一度で確認できる。
- ・端末は、打ち間違ふ時がある。また、途中で固まってしまう。
- ・フリック入力、きれいに文字を打てるが、打つのに時間がかかる。

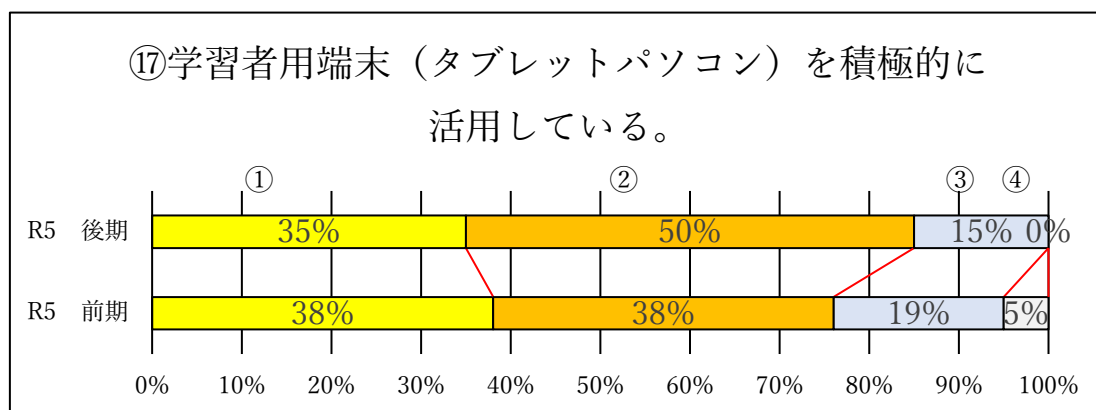
1年生は、ひらがな・カタカナ・漢字と、文字の習得が著しいです。だからこそ、まずは鉛筆を持って「書く」という活動の重要性を児童自身も感じているようでした。一方で、友達
の考えを見るなら、端末という答えが多くありました。一度に全員の考えを把握できるという
良さも感じているようです。このアンケートからも、主題名にもある通り、思考の流れを
止めないツールとしての ICT 活用が1年生の段階から、求められていると考えます。このこ
とから、決して端末を操作することがゴールではなく、児童が実際に「読む」「書く」「計算
する」「表現する」活動などがゴールに位置付けられることが望ましいと結論付けました。

校内に向けた取り組みでは、活用の指標として、1～6年生のオクリンクの使用時間数
(指導者が使うもの、児童が使うものの両者を含む)を一か月ごとに調べると、以下の通り
でした。なお、「時間割を引き継ぐ」という機能を使っている場合もあるため、正確な値で
はなく、計測値です。また、1年生については、システム上6月からオクリンクの使用が開
始されたものの、指導者はオクリンクを活用しているため、その数を含むものとします。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
使用時間数	68	129	76	31	173	159	131	155
1日あたりの平均	1学期 3.37			2学期 5.64				

結果を踏まえると、2学期は1学期と比べ、学校全体の1日のオクリンク活用率が上が
ったことが伺えます。2学期は、計算上は1週間に2回どの学級もオクリンクを活用してい
たこととなります。もちろん、ムーブノートを活用したり、学習ソフトを用いたりしている
場合もあるため、活用頻度はさらに上がると推定されます。

また、教員、児童、保護者を対象にした学校アンケートの ICT に関する事項を取り上げ
て、考察します。結果の以下の通りです。



【教員アンケートの結果】

回答項目は、①よくあてはまる ②あてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはま

らない の4つである。

	前期 肯定的意見	後期 肯定的意見
学校でタブレットパソコンを使って自分の考えを表したり、話し合ったりする学習をしましたか。	89%	95%
学校でタブレットパソコンを使って自分にあった学習（漢字学習やタブレットドリル、調べ学習など）ができましたか。	90%	95%

【児童アンケートの結果】

	前期 肯定的意見	後期 肯定的意見
学校はタブレット端末など ICT を活用した学習の実施に努めている。	87%	90%

【保護者アンケートの結果】

教員を対象とした結果を見ると、肯定的意見は増加し、オクリンクの使用時間数だけでなく、「活用できた」という指導者の意識の向上にもつながりました。この確かな思いが自信になり、今後も活用が伸びていくと予想されます。まずは、「使う」、そこから「慣れる」、そして「日常的に活用する」というステップを大事にしたいと思います。指導者の意識の向上が、児童アンケートの結果に強く結び付いています。2つの事項において、95%と、高い数値が出ました。そして、児童の思いが、保護者アンケートの結果に結び付き、後期は前期と比べ、肯定的意見が向上したことがわかります。指導者の意識の変革が、児童の学びに還元され保護者のアンケートの数値の向上につながりました。

上記のことから、学校全体で考えると、ICT 活用の広がりには確実に出ています。今後は、1日にどの学級も1回は活用できるように働きかけていきます。

(3-2)ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

実践を踏まえ、基本的操作技能や ICT に関するアンケート (Forms) を学級 22 人に実施しました。

	質問事項	肯定的意見	否定的意見
①	端末の起動や終了ができる	100%	0%
②	【ペイント】で文字や絵を描いたり、消したりできる	100%	0%
③	【ペイント】で、文字の太さや色を変えられる	100%	0%
④	【ペイント】の中にある蛍光ペンで線が引ける	100%	0%
⑤	図形を貼り付けられる	100%	0%
⑥	線や矢印などを貼り付けられる	100%	0%
⑦	オクリンクの【カメラ】で写真やビデオが撮れる	100%	0%
⑧	端末自体の【カメラ】で写真やビデオが撮れる	100%	0%
⑨	外部で撮った写真をマイボードに取り込める	100%	0%
⑩	カードの色を変えられる	100%	0%
⑪	【提出BOX】に提出できる	100%	0%
⑫	友達にカードを送ることができる	100%	0%
⑬	カードBOXからカードの出し入れができる	100%	0%
⑭	素材の「コピー」と「貼り付け」ができる	100%	0%
⑮	カードそのものの「コピー」ができる	100%	0%
⑯	トリミングができる	100%	0%
⑰	スクリーンショットができる	90%	10%
⑱	フリック入力ができる	95%	5%
⑲	インターネットで検索できる	100%	0%
⑳	端末を使った学習は楽しい	100%	0%
㉑	端末を使った学習はよくわかる	100%	0%
㉒	端末を使う時のルールはしっかり守っている	100%	0%
㉓	これからも端末を使った学習がしたい	100%	0%

①～⑱までは、基本的操作技能に関する問いです。どの項目でもおおむね100%を達成することができました。児童が、自信をもって端末を操作できているということです。同時に、実践の内容を踏まえることで、児童に基本的操作技能を養うことができることが明らかになりました。実際の学習の場面でも、端末に不具合が起きたという事象以外は、ほとんど指導者の支援は必要ありませんでした。⑰「スクリーンショットができる」、⑱「フリック入

力ができる」の問いは、やや1年生で求める技能からすると高いものですが、それでも90%以上の肯定的意見でした。もちろん、まだ不慣れな児童もいるため、困ったら児童同士が支援を求められる雰囲気づくりに努めたいと思います。

⑳「端末を使った学習は楽しい」、㉑「端末を使った学習はよくわかる」という問いでも、100%の肯定的意見でした。この問いは、知的好奇心が高く、学習にも前向きな1年生の児童からすると、高い数値は予想されたものの、きわめて評価できる数値でした。実際のところ、児童の資質や能力がいかにか、育成されたかを判断することはこの短期間では難しいです。テストの数値で単純に測れるものでもありません。ですが、実際の学習の場面やこの数値からも、児童が充実感をもって学習に取り組んでいたことが読み取れます。また、どの活動でも粘り強く取り組み、言語活動においてもすべての児童がねらいを達成できていました。自分が調べたものを相手に伝えるという活動では、相手意識に立って、読む文章を相手に示しながら読んだり、目と目を合わせて、読むところを指で押さえながら読んだりしていました。「ここまではわかる？」と尋ねる姿もありました。文章だけではなく、それに関連する絵を示す児童もいました。これは単なる活動の一場面ですが、本番で児童がどのように学習したことを生かすか、それこそが情報活用能力にも結び付くと考えます。そういった意味で捉えると、大いに児童の資質・能力は向上したと推察します。

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立つ場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)

ここでは本実践における児童の姿を振り返っていきます。

・国語科「くちばし」の学習では、端末の中に入れている資料から、自分のお気に入りの鳥を選ぶという活動を取り入れました。学習の中で、本格的に端末を取り入れたのが初めてだったため、慣れない操作で困惑する児童もいましたが、多くの児童が目を輝かせながら、学習に取り組んでいました。また、困っている友達を見かけると、すぐに駆け寄り、教える姿も見られ、人間関係の構築や豊かな人間性の育成にもつながったと考えます。

・実践の中で、「カードBOX」に保存するという機能を多く用いました。様々な教科で作成したカードは、「おきにいり」というBOXへ、図画工作科で作成したカードは、「ずこう」というBOXへ、言語活動を達成した記念の認定証は、「にんていしょう」というBOXへ保存させました。これまでは、自分の成長の記録をためることは難しく、指導者が記録する写真や動画が頼りでした。しかし、オクリンクに自分BOXという場所があることで、1～6年生までの自分の成長の^{あかし}証を確かに残すことができます。いつでも、どこでも自分自身で振り返ることができるのは、自己調整学習にもつながると考えます。

また、学級のカードBOXには、学習の軌跡として、単元名とオクリンクで用いたカード、

板書の写真を保存しました。そうすることで、前時の学習を振り返ることが容易になるだけでなく、欠席した児童が自分で学習を確認することも可能になりました。



【提出 BOX に入れているカードの例】

・本実践を通して、1年生の児童はオクリンクの機能のほとんどを使いこなすことができます。(彦根市では、1年生には、ムーブノートは導入されていません) 学年が上がるにつれて、WordやPower pointなどのソフトを使うことも考えられますが、1年生で確かな技能を培ったからこそ、今後新しいソフトについても使いこなすことができると考えます。また、児童は、困った時にほかの友達に聞く・一旦自分で解決を図るという手段を学びました。これは、どの学習でも大切にされるべき、学ぶ基礎基本だと思います。ミライシードを用いた学習は、基本的操作技能や情報活用能力を育成するだけでなく、一人ひとりの確かな学力の向上に大きく結び付いたと考えます。